

デザイン及び愛称・キャッチコピーが決まるまで

令和5年9月から11月にかけて、アンケートとワークショップを実施しました。

☑ アンケート

本巣松陽高校

ラッピングデザインのもととなるキーワードを集めるため、「本巣市の魅力」や「20年後も残したい本巣市の風景」などを尋ねるアンケートを実施。490人の生徒から回答が寄せられました。



ワークショップ①

✎ ワークショップ① 9/20 WED

岐阜工業高等専門学校(美術部)

アンケートをもとに、内装のラッピングデザインの原案を作成しました。天井チーム/内装・小物チーム/床面チームに分かれ、細部までこだわり抜いたデザイン案が完成しました。



ワークショップ②

✎ ワークショップ② 10/10 TUE

本巣松陽高校(2学年)

車両の「愛称」と「キャッチコピー」を考えるWS。だれでも呼びやすい響きとした案や、未来への希望を感じさせる案など6クラスが1案ずつ考案し、最終的に全校生徒による投票で決定しました。



ワークショップ③

✎ ワークショップ③ 11/1 WED

岐阜工業高等専門学校(美術部)

WS②で決定した「愛称」と「キャッチコピー」をもとにヘッドマークのデザイン案を作成しました。市のマスコットキャラクター「もとまる」をあしらった2種類のデザインが完成しました。

★ お披露目 1/26 FRI

ワークショップのレポートは本巣市がシティプロモーション事業推進に関する連携協定を締結している(株)リトルクリエイティブセンターが運営するローカルメディア「さかだちボックス」でご覧いただけます



[さかだちボックス]

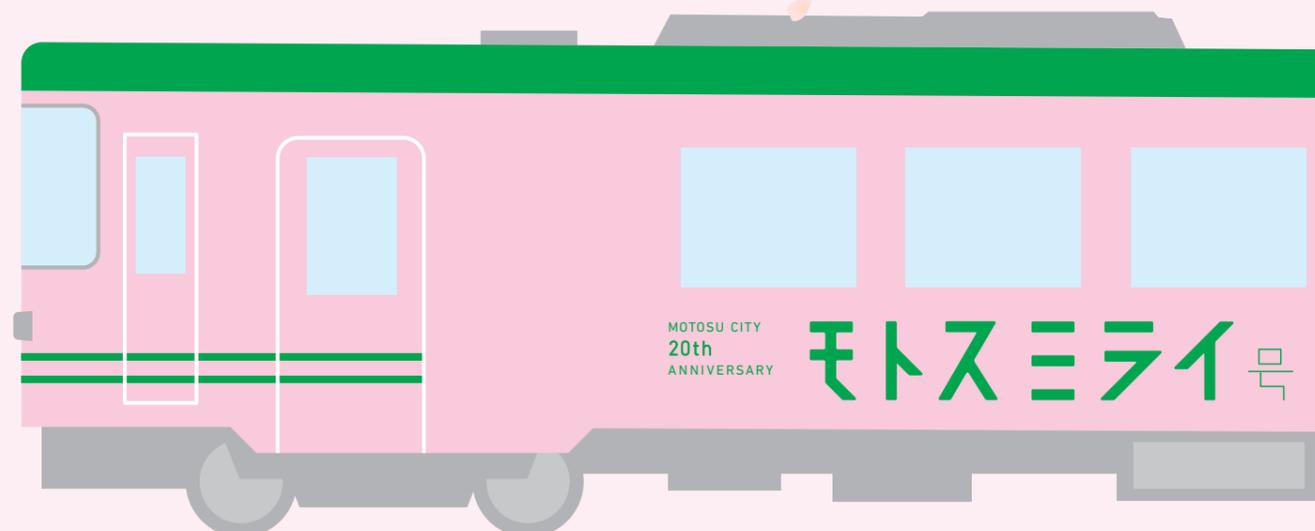
＼ 参加した生徒の声 /

樽見鉄道沿線の美しい自然や街並みを反映してデザインしました。通勤通学から観光まで、車両に乗った人の日常に楽しさや発見をもたらすことができたら幸いです。細部にも拘っているので乗車された際にはぜひじっくり見てみてください。

(岐阜工業高等専門学校 美術部 4年生)

「モトスミライ号」という名称は、本巣市がモトステキナミライに向かって発展していく姿をイメージして付けました。10年後、20年後、もっともっと先まで、たくさんの人とみんなの思いを乗せてこの電車が走り続けていくことを望んでいます。

(本巣松陽高等学校 2年生)



・ ABOUT ・

本巢市では令和6年2月に市制20周年を迎えることを記念して、市内を走るローカル鉄道「樽見鉄道」のラッピング事業を実施しました。ラッピングデザインを考える〈ワークショップ〉及び、車両の愛称等を決定するための〈アンケート〉には本巢市と連携協定を締結し、市内に立地する岐阜工業高等専門学校と本巢松陽高等学校の生徒のみなさんにご協力いただき「未来への希望をつなぐ」 「モトスミライ号」が誕生しました。

＊ CONCEPT / DESIGN ＊

愛称・
キャッチコピー

「モトスミライ号 本巢市市制20th 未来への希望をつなぐ」

本巢松陽高校の生徒が愛称・キャッチコピーの考案を担当。幅広い世代への親しみやすさと、本巢市の未来への希望を込めました。

ボディ

本巢市が誇る淡墨桜のカラーをベースに、運行中でも目に止まるよう、愛称とキャッチコピーを大きくあしらったシンプルなデザインに仕上げました。



ヘッドマーク



Point!

内装にも描かれている淡墨桜を用いることで統一感を出し、もとまるが淡墨桜を滑って楽しんでいる様子を描くことで、明るくキャッチーな印象に落とし込みました。

Point!

背景に淡い色を使用することで「本巢市市制20th」がしっかりと浮き上がるように工夫。さらに市章を入れることで、本巢市民に親しみを持ってもらえることを目指しました。

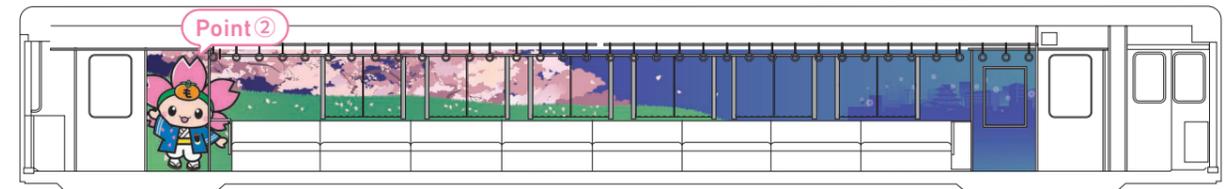
内装

岐阜工業高等専門学校美術部がデザインを担当。20年後に残したい本巢市の風景として、淡墨桜や根尾川の風景画をダイナミックに描きました。

天井



壁面



床面



Point①

夜空には市制20周年を祝福するかのよう、20個の星が瞬きます。根尾川の上流から下流にかけて、夜空の明るさが変化するという、細部にまでこだわりました。

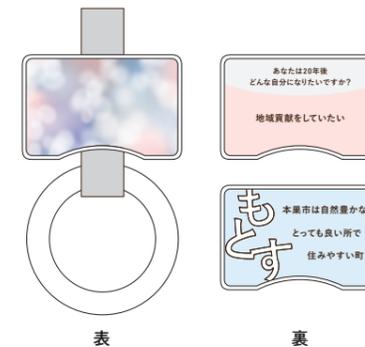
Point②

老若男女に親んでもらえるよう、壁面には本巢市のマスコットキャラクター「もとまる」のイラストを大きく描き、床面の根尾川にも舟で川下りをする、もとまるが登場します。

Point③

デザインはグループごとに分担して行いつつ、天井から壁面、床面のデザインがしっかりと繋がるように、グループ間で連携して制作しました。

吊り革



Point!

表面は、吊り革が電車の揺れに合わせてゆらゆらと動くことを想定し、揺れた時に雪にも桜にも見えるよう、敢えて曖昧なデザインに仕上げました。また裏面には、内装デザインを考える際に実施したアンケートの回答を掲載しました。

広告枠



Point!

広告の有無に関わらず、活きるデザインを目指しました。市民には親しみ深いもとまると、市の特産、富有柿と真桑瓜を描き、市制20周年を祝う言葉を加えることで、記念車両の雰囲気を大切にしています。